

理想國： 雜録

著者	金城生
雑誌名	龍南會雜誌
巻	8 1
ページ	3 1 - 4 4
発行年	1900-09-30
その他の言語のタイトル	理想国： 雜録
URL	http://hdl.handle.net/2298/4991

ないから、諸君は出来るだけ御奮發あつて、國家をば落第させぬ様にまで戴きたふります。

理想國

金城生

古往今來の哲學者政治家にして、其胸中に畫策したる社會を描寫し以て當世を警醒せんと企てたるもの甚だ多し。就中英のトマス・モア氏のユートピアの如きは、比較的進歩せる國家を形成し、加ふるに氏が精緻なる筆を以て最も丁寧且つ愉快に紹介されたるものとして人々に膾炙するところなり。されど一々之を譯出せんことは、徒に讀者の倦怠を來すのみなれば、今は唯其の殊に面白しき覺ゆる所々を摘出せんのみ。小説的文字を借りて面白くものせむなごの豫告は、法螺若くは理想?を寛假し給はらば幸甚。

モアの略歴及び其の時代

サー・トマス・モア氏はキングスベンチの判官サー・ジョージ・モア

氏の子に於て、千四百七十八年倫敦市ミルク街に生れたり。幼に於て穎悟、彼れが保護者たるカンダバリーの大僧正兼大法官カーディナル・ジョーン・モルトン氏を以て『後來此の子の才を用ふるものは必ずこの子が顯著稀代の人たることを知らむ』と叫ばしめたる程なりき。彼れが初めて國會議員となりたるは、其の二十一歳の時にあり。而て其の翌々年を以てヘンリー七世の苛酷なる租稅案に反對し、多數の人々を驚かしめ、遂に國會を以て其の案を否決せしめたり。王依て大に怒る。モア乃ち職を退きてエドワード五世傳を著し、非常の喝采を博したれども、常に王のために惡まれ、國を去らんとする考を起すに至れり。國王ヘンリー七世は千五百九年三月を以て死なぬ。當時モアは齡僅に三十を超えたりといふ。ヘンリー八世尋て立ち、彼れは再び出で、大藏大臣となり又

衆議院議長となり、ヘンリー八世の提出せる國債法案に反對を盛にカイデナル、ウルセイを攻撃したり。千五百二十九年ウルセイ罷められてモーアは大法官となり、以て千五百三十二年に至る。千五百三十四年彼れは再び王位相續令に承諾を與へざりしかば、捕へられ、其翌年死刑の宣告をうけて逝けり。

ユートピアは千五百十八年出版せらる。もとこれモーアが理想國に於て、ユートピアとは (Utopia, no. where) を意味す。羅典語にて記されたるものなりき。疑もなくモーアはユートピアの有様を以て己が宗教上政治上及び社會上に懷抱する所の改革意見を發表したるものにして、換言すれば、彼れは當時に於ける英國の狀態に満足する能はざるところあり、且つプラトンの共和國を讀み、アルタークの筆せるライカーガス治下のスパルタ人の境遇を見て感奮するところあり、渾然とて成るもの則ちユートピアなり。

當時に於ける英國の狀態。

當時英國の社會は、富者が貧民に對して作れる一のコンスピラシイに過ぎず。法律ありと雖も、是は單に富者の我慾を達せんがために設けられたるものに於て、彼等はあらゆる手段を以て貧民を虐め、貧民は極少の賃銀を以て過分の勞働に使役せられ、漸くにして得たる生活費は、あはれ富者の爪牙によりて掠め去られ、復た衣食の途を見出す能はざりき。而して國民の大半は讀書力なき盲昧の徒より成るを以て、敗徳の行、不義の跡は到處に遍く、之を罰すること甚だ苛酷なるも、徒に窃盜を驅て殺人たらまめ、隨て罰すれば隨て罪を犯すもの比々どまて皆然り。且つ又ヘンリー八世は自ら英國教會長と号す種々の法令を發布して宗教に干係きたる人なるがゆへに、權勢威力もて信

教の自由を抑壓せたること言ふ迄もなし。

ユートピアの嶋 ユートピアは中央二百哩の幅員を有しその大部分亦殆んど相等きも、唯兩端に赴くに從ひ漸次狭小となり、その形新月に似たり。而て其の尖間は海水深く噛み入りて自然に一、大灣をなし廣さ十一哩あり。全嶋の周圍凡そ五百哩、毫も暴風の憂なし。乃ち灣に大潮流なく且つ全海岸は之を譬ふれば連絡せる港の如く、住民の凡てが受くる商業貿易の利便は甚だ大なり。然れども灣口の一方は巉岩突とて聳ち、一方は水淺きを以て舟行太だ危険なり。その中央に一頑石横はりて水面に顯出するが故に容易に避くることを得べく。その頂上望樓あり番卒之に住み、自余の岩石は全く波底に沒て何處に存するかを認め難く、其航路はだゞ土人に知らるゝのみ。されば外人にまて水先案内者なく入り來ることありとせんか、彼れは難船の大危険を敢てするものなり。若しまた二三標的の海岸に在るもの彼等の航路を指示することなくんば、土人と雖も尙安全に通行すること能はず。是を以てこれ等の標的少しく變せられたらんとし、そのかれ等に逆つて來る艦隊は如何に偉大なるにせよ。畢竟破壊せられざるものはあらじ。此の島の他側には又幾多の港泊あり。

其の海岸は自然と人工とによりて防衛せられ、少數の人能く大軍の襲來を掃蕩するに足る。

首府及び田舎 嶋中五十四都城あり。総て廣大にまて良好に建築せらる。各都城は彼等共通の關係を議せんがために、年一回其の最良の三議官をアマウロットに派す。是れ其の首府にて島の殆んど中央高地に在り。アニダー河其の臺下を流る。街衢整成家屋相一致と全然一家の觀あり。城は壇壁高く且つ厚く、處々に塔樓砲臺を有と、溝渠三面を圍繞し、第四面には川流あり。花園亭屋到るところに設けらる、而て市民は自ら地主ならずして借地人なりと考ふるものなるがゆへに、彼等

は、田舎の隅々迄も都合よく農家を建設し、地を耕し、家畜を養ひ、森林を伐採せ、水陸その便宜の方法によりて其を都城に運搬するなり。若し産せざるを以て田舎に欠けたるものあるときは、彼等は交換物を送らずして其を都市より取り來り、都市の官吏は注意して之を看守するの習なり。

官吏 三十の家族年々一官吏を撰出す。是を古はシフラグラントと呼び今はフヒラークと言ふ。又其の上に位する官吏あり。古はトラニボールと呼び近時は之をアーチフヒラークと稱す。總數二百のシフオグラントは四階級の市民が指名せる四の名簿中より國王を選擧すべきものなるが、其は最も職に適するの士を選ぶことを誓ひ、隱密に投票するによりてなされ、國王は終身官なり。(國民を虐待せんとする企畫なき限りは)すべてこれ等官吏が國事を議するや尤も慎重を極め、大事件は之を全島の大會議に附て後に決す。

職業及び生活 農業は男女一般に知悉せられ、一部は學校に於て一部は實際に就て教示せらる。かく普通なる農業の外かれ等は又各々其の特業に従事し、羊毛若くは亞麻の製作、泥工鍛工大工の職など——彼れ等の中には特に貴しとする職業あらざるなり。全島の民皆一様の衣を着す。男女及び未婚者既婚者を區別するの他に必要あることを認めざればなり。風俗亦變化なま。女は多くその柔軟なる性質に適應する羊毛亞麻を取扱ひ、荒仕事は専ら男子の力むるところとす。人性の傾向は往々遺傳するものなるを以て、同一の業父祖より其の子孫に傳はること通例なれども、其の子孫の才若し他に傾かんか。彼等は其の職を營む他の家族に移され、時々其の父及び官吏の好意的注言を與へらるゝのみ。且つ人一業を修得せたる後更に他の業を學ばんことを欲するときは、彼れは又許されて移職の際に等しき取扱を受く。かくて彼れ双方を習ひ得たるに於ては、別に公共的必要存せ

ざる限が自己の望むところに従ふを得るなり。

シフオグラントの主要にして殆んど唯一の職は、各人をして怠惰に陥らしめず、其の職に勤勉ならしめんと注意するにありといへども、決して星を戴て出て月を蹈んで歸る程の苦役を課して人民を鞭撻するにわらず。是れ實に苛酷なる奴隸的勞働なればなり。かれ等は六時間を以て勞働時間とし八時間を睡眠時間とし、餘の時間を以て隨意の事に従ふを得。されど彼等は此の閑暇を惡用せずして多く讀書に費す。然れども僅に六時間の勞働果えて能く必要的衣食の欠乏に苦めらるゝことなきを得るか、憂ふるなかれ。この時間は必要又は便宜なる凡ての物を彼等に供給するに充分なり。否ひまろ餘りに多きなり。而して他國民の大多數が如何に懶惰なすことなきかを考察せば、蓋し思半に過ぎむ。

人類の半身たる婦女子は概ねなす事少なきもの也。假令二三精勤なる女性ありとするも、其の夫は怠慢なり。殊に疎放なる僧侶、所謂宗教家の多數と及び財貨を有すと誇る貴族並びに紳士とが由來遊惰なる其の家族と共に見る目も氣の毒千萬なる山笠的階級なることを思ひ、又之に加ふるに病に托えて門邊に立ちつゝ哀を乞ふ幾多の頑丈強健なる丐兒に就て考へよ。而して之を總括せば汝は人類に供給する勞働者の數恐くは汝が想像するよりも更に甚だ少なきに驚かむ。さて其の少數の勞働者すら眞に有益なる事業に従ふもの如何に僅なるかよ。蓋し貨幣を以て事物の標準となす吾人は、無益に之て余計なる且つたい放蕩と奢侈とを維持する數多の職業を誘起するを免れざればなり。今それ此等無益の勞働者にして更に有益なる業務に従事せたりとせよ。其が一生を怠惰放逸に徒消する遊治郎に之て勞働の止むなきに至りたるものなりとせよ。茲に初めて汝は容易く僅少時間が人生

に必要有益愉快なる凡てを供するに足るべきかを想像し得べし。其はユートピアに於て實現せる状態なればなり。

斯く彼等ユートピア人はすべて有益なる労働に従事するがゆへに、又貪慾飽くなきの徒にあらざるがゆへに、物皆充滿して不足なく、他になすべきことなき故を以て送られて大道を修築すること屢なり。然も一たび公共的事業完成せらるゝに至ては、其の労働時間は減少せられて悠々閑々、官吏は決して之に不用の勞を服せしめず。何となれば、國憲の主眼は公共の必用に依て労働を規定し、國民に與ふるに其の心意の改善に須要なる時を以てするにあればなり。其はかれ等が人生の幸福成立すと思惟するものなればなり。

貿易 彼等の都市が家族制なる如く、彼等の家族も亦相互近親の者を以て成る。然して女子は長して他にいで嫁することあるも、男子は子々孫々同一父祖の家に住して從順緝睦風波毫もその間に起ることなし、唯渠等の恐るゝ所は其の都市の余りに龐大となり若くは一朝不慮の變事によりて空虚とならんことにして、之を豫防する策としては、其の都市はそが周圍なる田舎の家族の他に六十家族以上を有すべからずとなし、又一家族は決えて十人以下十六人以上たるべからずとなすも、丁年未滿の兒女に對ては一定の員數なし。これらは子寶多き夫婦はその然らざるものに幼兒を與ふるに見ても明なるべし。是れと全しく人口の繁殖非常に迅速なる都會は年々蒼生を減少しつゝある市府と相待ちて彼我平均を持し、若し又、全嶋の人口増加すどせんか、彼等はその住民中の幾分を近隣大陸の諸地に送り、茲に平和的殖民を企つることあり。然かも彼等が祖國に於ける愛慕の念は些少も減せざるなり。

各都市は皆分たれて四部となり、各部の中央には市場あり。彼等が製作せる物品は総て此處に運び來され、かつ一定の家屋に納めらる。即ち一種の產物は悉く一所に集るがゆへに、其を要する人々は何時にても代價を拂はず交換物を残さず、各自が要する物を携へ歸ることを得るの仕組なり。蓋しユートピアに在つては、人をして貪慾ならせむべき欠乏の恐れなく、人贅澤を以て光榮なりと妄想するの慢心を生ぜしむべき動機なきにより、彼等は必要以外に其を取り去ること夢にもなきところなればなり。

ユートピア國民は甚だ公共心に富めり。己れ獨り能くして他を顧みざるが如き利己一偏の卑劣漢。外國人を待遇すること甚だ鄭重にして特に之を迎ふるための家屋あり。又彼等は廣堂に於て晝食、夕食を共にする習にて、唯だ病んで家に臥するもの及び病院にあるもののみは此の範圍外にあり。而して其の食事の始には道徳上の講話あり。簡明にして人を倦ましめざらんことを力め、且つ晝飯は簡單なるも晚餐には必ず音樂の催ありて彼等の精神を愉快ならしめ以て靜に其の生を樂ましむるなり。

旅行 人若し他の都城に住する友人を訪はんと志し、又は國內未見の土地に旅せんと望むことあらば、彼れは家に止るべき特別の事情なき限りはシフ、オグラント及びトラニボールの許を得、國王の附與する旅行免狀を以て自由に巡遊するを得るものなり。而して彼等の旅路に在るや、別に食物の準備あらざるも敢て不足を感ずることなく、到る處その家に在るが如くに遇せらる。若し又、彼等にまて其の地に留ること一夜を過ぐるときは、其が適する職業に従事せ、以て徒食することなし。然れども若し其の人にまて旅行勞なく勝手に途上を漂泊することあらば、彼等は逃走人とまて所罰さ

れ、虐待され、本都に送り返され、且つ其の過失を再びするとき、奴隷とて罪に科せらる。されど彼等官許を得て旅行したるとき、其の款待せられんことを欲せば、其の旅行先に於ける人々と共に勞働し又彼等の規約に従はざるべからず。事情此の如きを以て、ユートピアの國民は勞ひ其の何處にあるを問はず。必ず勤勉ならざるべからざるなり。従て一個遊惰の民なく又勞働を逃るゝの托言なきなり。尙ほ此處には酒舗なく妓樓なく人々を腐敗せしむべき機會なし。ホノ暗き裏屋に誘はるゝの心配もなく黨爭格闘せしむるの因依もなし。國民はすべて公明正大の生活をなせり。故に彼等は其の常職を全うし而て其の余分の時を利用して自身を矯正するを得。彼等奚ぞ家々足り人々給するの良民となり、幸福なる社會を顯出せざるを得んや。

余が殊にユートピア國民に於て驚歎するところのものは、其の金銀に對する觀念なり。彼等は、年度各都城より三賢士を派する首府アマウロットの會議に於て、欠けたるを補はれ充ちたるを給せられ、恰も國內一家の如き生活を營みて、有無相通じ、其の要する凡てを引き去りて尙ほ多分の剰余あるがゆへに、穀物蜂蜜羊毛亞麻木材蜂蠟獸脂羽毛及び家畜を國外に輸出すること夥しく、或は之を以て其の國家に要する鐵其他の物品と交換え、或は多額の金銀を受く。然かも此の交易をなすこと年已に久しきを以て、彼等が如何に莫大の財貨を藏せるかは到底想像の及ばざるところ、此の金銀や今は契約によりて保存せられ、一私人の名義に係るものなし。而て其を使用するは主として戰爭の際のみ。即ち兵を雇うて之を勵ますに賞金を以てえ、又は之によりて敵兵を釣り、能く不可思議の大勝を得るなり。されど彼等は未だ嘗て金銀を以て貨幣とて用ひたることあらず。戰爭は常に存するものにあらざるがゆへに、彼等の金銀を用ふるの時は極めて稀に、従て其を費すことも

思ひしより僅少なり。故に彼等は金銀をさほゞ重寶がらざるなり。ひまろ玩物視するなり。彼等は金銀を以て便器を製し、奴隸の桎梏を作り、汚名の徽章として黄金の耳環を穿たまひるなり。眞珠及び金剛石は幼兒の裝飾物に磨かるゝのみ。

茲に面白き一話あり。アチモリヤの使節は或る大事件を處理せんとて、アマウロツトに來りしことありき。ユートピア國各都城の代表者は其を歡迎せむがために會したり。此の時アチモリヤ人はユートピア國と交通すること日猶淺きの故を以て、未だ事情に熟せざるところあり、ユートピア人の耳目を聳動せしめむとて、絳衣大冠金玉もて身を纏ひ威儀堂々たる使節の一行は入り來りぬ。使節自身は黃色燦爛たる金衣を着け、金製の重鎖耳環指輪及び其の眞珠並びに他の寶玉もて飾られたる戴冠——一言之を蔽へば、ユートピアに在ては奴隸の記號、汚名の標示、若くは幼兒の玩物たる總てを纏うて得意氣に入り來りぬ。彼等を迎へんとて集りたるユートピア國民は殆んど失笑を禁じ得ざりしなり。汝は長じて彼等の玩具を排斥し其の嘗て弄せし珠玉を棄擲するユートピアの兒童を見るならむ。彼は母を呼び徐に其の珠玉を取り叫んで曰く『嬰兒の如く珠玉を着くる夫の大愚者を見よ』と、母は取敢へず答へて『黙せよ』といふ。是れ紛ふ方なく使節の愚を笑へるの一にてありしなり。アチモリヤの使節等は此處に止まること一日にして、金銀家に堆積せ、奴隸の鎖鑰足械すら却て自己の裝飾に優るを見るや、其の慢心は忽ちにえて失望となり、冷汗骨に徹するの思あるに至りぬ。

ユートピア國民は如何に世人が爾く多大に金玉の輝光に眩惑するかを驚くなり。又如何に世人が錦衣を服えて自ら眩惑するかを驚くなり。何となれば錦衣いかに美なるにせよ、もと蠶糸の彩色せざ

もの、羊毛より暖に且つ肌心地よきものにあらざればなり。彼等は更に驚くなり。其れ自身に於て左迄有用ならざる黄金が其の人のために作られ、其の人に依て價值あるところの人以上にさへ尊重せらるゝと聞きては、殆んど言ふところを知らざるなり。蠢愚にまて悪性なる木偶人が唯、其金銀を多く畜うるの故を以て、幾多賢良の士を願使すと聞き、又境遇の變移、時勢の流轉によりて、主人の財貨が最も卑賤なる奴隷の手に歸せしとき、主人は恰も其の財貨に附屬するものゝ如く、直ちに其の奴婢の膝下に叩頭すと聞きて、益々驚くなり。然れども彼等は又愈々驚き異むなり。毫末の恩惠を受ける見込なきも、單に富者たりとて之を殆んど神佛同様に崇敬する人々の愚に呆れ且つ賤むなり。蓋し彼等は夫の富者が世にも稀なる貪慾卑劣なる種族にして、所狭き迄に積める富の一厘一毛をも己が生命のあらん限りは、手より放たじと努むるを知ればなり。

學識 ユートピア國民は學問を好み、強ゐられずして讀書を、勉勵す。從て甚だ聰明なり。百般の學術皆大に進歩せるも、窮理は彼等の特に長ずるところにて、道德宗教に關する論義最も多く、且つ有益なる發明も少なからず。而して彼等の特に愉快を感ずるものは心意の改善に在り。思へらく、健康は人生が有する肉体的快樂中の第一位に置くべきものなれど、素と健康其れ自身に於て快樂たるものにあらずして、たゞ蒲柳の質が堪へ得ざる風土の刺衝に抵抗することを得る限りに在てのみ然り。故に思慮あるの士は、醫藥を服せむよりは疾病に罹らざらむことを望み、治療によりて安樂を見出さんよりは苦痛に遠からんことを欲するが如く、茲般の快樂に耽るの止むべからざるよりは寧ろ其を要せざらんことを希ふものなりと。

奴隸及結婚 金城生がユートピア國に就て（モーア氏の寫せる）遺憾に思ふところは、其が奴隸を

使役するを廢せざるの一事なり。縱横無盡に社會の弊風を痛罵せるモリアも、流石に希臘古代の固陋なる學說に支配せられ、アリストートルが言ひけむ如く『人類に二種あり。他人に命令するものと、他人に服従するものと、即ち自由民と奴隸と是にて、奴隸制度の起りしは天然の道理、固より人力の如何ともすべからざるところ、正當にまて且つ有益なるものなり』と認められたるならむ？されどモリア氏逝てより茲に殆んど五百の星霜を閲えぬ。惟ふに現今のユートピア國は既に奴隸を有せざるや疑なし。

男は二十二歳女は十八歳に至らざれば婚姻をなすを得ず、と民法第七百六十五條に規定せらるゝや否やを保せずと雖も、彼等は常に前掲の年齢以前に於て結婚することなま。然かも國王の特許なき限り、終生婚姻の權利なきなり。彼等が其の婦妻を撰擇する方法こそ世にも珍らまゝ又可笑しきものなれ。曰く其の結婚前一人の鹿爪らまゝ老婆は、新婦の衣を脱ぎ以て婿君に示まて其の處女なるか寡婦なるかを驗せまむ。終りて又嚴格なる一老翁は、花婿を全しく赤裸となまて以て御臺所の閲覧に供するなり。豈に理に背き禮を失するの所置にあらずや。然れども彼等は言ふ。駄馬一頭を購ふに於てすら、鞍を下し綱を解き鬚鬣を梳りて其の潰瘍なきかを吟味するものを、終生の浮沈を共にする妻女を撰ぶに當り、漠然其の容貌の美醜を見て更に掩はれたる各種の欠點を驗せざる他國民の愚寔に及ぶべからずと。彼等が斯く婦妻を撰ぶに慎重を極むるは、又他にも必要存するなり。蓋し彼等は姦通若くは堪ふべからざる虐待を蒙るにあらずれば、數夫多妻及び離婚をなすことを許されざる規定なればなり。此の如き場合には、元老院其の婚姻を取消まて、被害者に再婚の特許を與ふるも、加害者は名譽地に墮ちて、到底復た結婚するの特權なま。彼等は結婚後其の配偶者の身

体欠損あるの故を以て分離すること能はず。是れ殘忍酷薄の極なりと考ふればなり。而して姦通者は最大犯罪の刑罰たる奴隸となされ、不斷の苦役に服せらる。若し反抗して其の桎梏を着けず。又勞働に服せざらんか、之を待つに猛獸を以て、投獄鎖鑰遂に死に至らむことありと雖も、耐忍能く其の罪に服せ戒善の意確固たるに於ては、國王の特權若くは人民の勸解により其の自由を恢復せ、或は少なくとも大に其の勞力を軽減す。その姦通を媒介誘起せたるものも亦罪姦通者とおなじ。彼等の官吏は凡て人民と共に住み、横暴ならず殘酷ならず。極めて丁寧親切なり。故に人民は之を父と呼び其の名決て虚ならざるなり。國王と雖も、高僧と雖も別に衣冠の異なることなく、唯だ唯に前者の車前に一束の穀物を運ぶと、後者の蠟燭を携ふる人に先立たるゝとの差あるのみ。

彼等は法の煩しきを願はず。従て國法の數少なき。且つ彼等の中にはモグリ代言人あらず。其の必要を認めずて却て有害なるを信すればなり。

軍隊教育 彼等は戦争を排斥して殘忍兇悍なるものとなく、世人が獸畜よりも多く之を行ふを以て、眞に人性を辱かしむるものと思惟す。彼等は殆んど凡ての他國民の感情に反して、戦争に因て得る光榮は名譽なるものはなきとの觀念を抱けり。故に彼等は日々練兵に従事し、且つ必要の場合に際し全く無用ならざらんがためにとて、婦人も亦練兵に加はるなり。而も彼等は倏忽とて戦争に與かるものにあらずて。唯だ不法なる攻撃者に對し、自衛及び朋友を防禦するか、さなくば、善意又は同情の心を以て、暴虐なる專制の羈絆を脱せんとする國民を助くるのみ。

戦争に於ける彼等唯一の目的は、加害者を恐怖せしめて爾後再びかゝる暴虐をなさざらざるにあり。即ち豫て堆積せる莫大の金銀を投じて惜むことなく、且つ最も勇悍に奮闘す。偶々其の力戰動な

らんとするか、彼等に取りては塵芥にも値せざる、他國民に取りては何物よりも有難き、黄金の魔力もて内應者を得、畢竟奇捷を博せずんば止まざるなり。

宗教 ユートピアには諸種の宗教あり、或者は太陽を拜ふ、或者は月若くは惑星の一を奉じ、又或者は前代の偉人傑士を神とまで祀れり。然かも彼等國民の大部分に於て賢明なる種族は、決して此等の一を禮することなく、永久無形無限に於て且つ不惻なる一神ミ・ス・ラ・ス・ム敬事す。此の神や遠く吾人思想の外に存し、其の勢力、德行天壤と共に窮りなきものにて、彼等は之を萬物の祖と呼び、あらゆる有情無情の創始、増加、進歩、變轉、及び結局は皆彼れより胚胎するものとなし、彼れ以外に於て神あるを信ぜざるなり。

其の後彼等は耶蘇教義を聞き、恠きほどの熱心もて之を信じたり。蓋し彼等ユートピアの國民は、如何なる宗教を奉ずるも凡て自由にて、又タトヒ全く神を信ぜざるものあるも罰せらるゝことなし。諸種の宗教信者雜居するに係はらず、毫も争ふことなく、議論に訴へ腕力に訴へて他人を改宗せしめむと計ることなし。人は各々其の好むところを信じ得といふを以て格言なりとするものなればなり。

ユートピアの状態概ね以上の如し、讀者恐くば其の結構余りに架空的なを嘲けるものあらむ。いかにもユートピア國の有様は小説的なり。吾人と雖も否々モア氏と雖も——たゞ其の畫策の巧妙なるを以て満足するものにあらじ。吾人は無論世界の文明諸國が完美なる法制と才學ある官民とを有するを知れるも、要するに凡ての政府は富者強者の味方たるのみ。黄金萬能主義なるのみ。國益の親玉には褒賞を授け好色宰相には勳爵を惜まず。無告の老幼は叱て去らざる可憐の少女は欺か

るゝまゝに海を渡らしむるにあらすや。而して追従輕薄なる守錢奴及び膽なく識なく節操なき横着物は、大人物と崇め奉りて其の佛頂面を到るところに下げ回らしむるにあらすや。是に於てか。相互の便利を圖り安寧を保たんがために設けられたる國家政府は、反て秩序を紊り野心を弄するものと化して、種々の弊實續出し、むしろ政府なく國家なく隨意に水草を追うて水清く花咲ふ樂天地に生を送りし太古の世の優れるなきかを想はしむるものなきにあらす。されど是は山に入り得べき世捨人の望みて達し能ふところにて、到底經國の志あるものゝ實踐し能ふところにあらじ。乃ち胸中の磊塊を洩して之を他日に期する所以、希望、快樂たい茲に存す。

(完)

江山放浪

布 峰 生

“Travel, in the Younger sort, in a part of education; in the elder, a part of experience.” — Bacon.

○ 一路夕陽紅

晩潮雨を帶んで、輕く中洲に蘆芽を搖する。曰杵川の長橋をわたり。白壁、青壁、綠樹の間に隱現する龜城々下を見すて。驛馬の鈴、遠くさこゆる大分街道を、白山峠の方へ廻ると半里あまり。偶々一支徑の、溪川に添うて右に奔るを見る。天然石の『道まるべ』は、伴れ立てる友の語るも待たで、